

■ 小樽港開基 150 周年・開港 120 周年

小樽市 産業港湾部 港湾室 港湾振興課

はじめに

小樽港は、北海道西部、積丹半島の東側、石狩湾に面する弓状に入り込んだ海岸線に位置しており、北海道の中心都市である札幌市までは約 40km の陸上距離となっています。

小樽港周辺の地勢は、北・西・南の三方に山があり、これらが連なる丘陵地が小樽港を囲んでいることから、冬季の波浪に比較的強く、水深の深さとも相まって古くから天然の良港と言われています。

開基 150 周年・開港 120 周年

小樽港は、明治 2 年に手宮海官所が設置され、商港として開かれてから 150 周年を迎えました。商港としての役割を担うようになってからは、北前船の寄港が始まるとともに、道南を拠点としていた商人や富裕層が小樽へ移住して商売を行うようになって活況を呈し

たと伝えられています。

また、石炭の積出港として重要な役割を担い、同時に一般貨物の往来も活発になった小樽港は、明治 32 年に国際貿易港に指定され海外に向けて開港されてから、本年で 120 周年を迎えました。

それを記念し、今年小樽港では様々なイベントを行っておりますが、中でも市民の皆さんに港をより知っていただく試みとして、10月6日(日)に官公庁船舶一般公開を開催いたしました。

当日は、小樽海上保安部、小樽税関支署、北海道開発局小樽開発建設部、国立小樽海上技術学校の作業船舶と、小樽市が所有する新しいひき船「たていわ丸」に第3号ふ頭へ集まっただき、普段は一般に公開していない船舶の内部を公開し、それぞれの船舶の役割や機能について説明していただきました。



小樽海保巡視船「しれとこ」



小樽港湾事務所 港湾業務艇「ひまわり」



小樽税関支署 監視艇「かむい」



小樽市 引き船「たていわ」

御参加いただいた市民の皆さんは、普段中々内部を見ることができない船舶に興味津々の様子で、各船舶の説明に熱心に耳を傾ける姿や写真を撮る姿があちこちで見受けられました。

また、11月27日(水)には、『開基150周年・開港120周年～船客万来・小樽港が目指す機能的な港湾～』をテーマに、「ザ・シンポジウムみなと in 小樽」を開催し、小樽港のこれまでの歴史を振り返る基調講演と、小樽港の未来に夢を馳せるパネルディスカッションを

行っていたことができました。御協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げますとともに、我々といたしましても貴重な御意見を賜る機会とさせていただきました。この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

小樽港では、このイベントのほかにも、12枚のパネルによる「写真で見る小樽港の歴史」パネル展を、マリニフェスタや官公庁船舶一般公開などのイベントにあわせ実施しており、今後も、市民の皆様に港をより身近に感じていただけるよう努めてまいります。



パネル展「写真で見る小樽港の歴史」

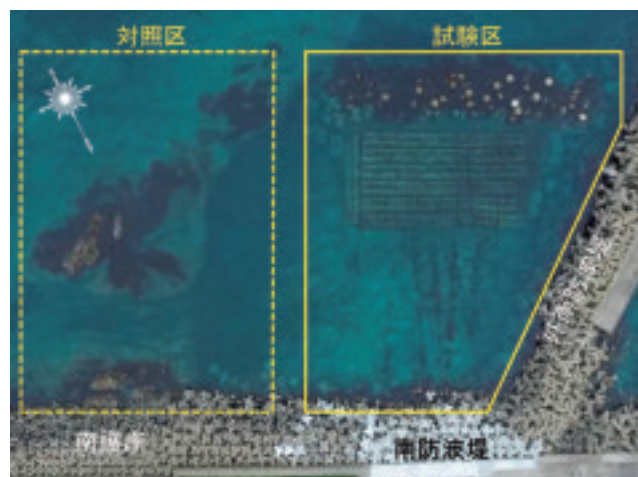
■ 第18回全国漁港漁場整備技術研究発表会(久遠漁港)

北海道開発局 函館開発建設部 江差港湾事務所

令和元年10月17日に「第18回全国漁港漁場整備技術研究発表会」(以下、「発表会」という)が鳥取県米子市「米子コンベンションセンタービックシップ」にて、基調講演1題、一般発表13題の発表会が開催されました。13題中の1題として江差港湾事務所から「久遠漁港における「磯焼け対策緊急整備事業計画」の取り組みについて」を発表しましたので報告します。



発表の様子



調査箇所の航空写真

1. 事業の概要

本事業は、南防波堤及び南護岸の越波防止を図るとともに、藻場創出場を確保するため、南防波堤及び南護岸の沖合に二重堤(潜堤)を設置するものです。潜堤による浅場が形成されることで、小段天端部の流速が増大し、